

事例紹介

茨城県土浦市立 真鍋小学校

家庭との連携で学習習慣の確立、 学力向上へ！



茨城県の天然記念物にも指定されている、校庭の樹齢100年を超える大きな桜の木が有名な土浦市立真鍋小学校では、子どもの学習意欲を伸ばし、家庭での学習習慣の定着に向けて、eライブラリを活用しています。

授業

授業支援ではじめてのパソコン授業！

● 低学年からプログラミング教育の入門に！

今回は1～3年生を対象に、担任の先生の立ち合いのもと、ライズ社員がパソコンとeライブラリの使い方を指導する、「授業支援サービス」を実施しました。パソコンが初めての子どもたちも、マウスの使い方やクリック操作に始まり、ドリルでの学習方法まで習得していききました。

「マウスやキーボードの基本的な使い方はパソコンの入門です。それをドリルを解きながら子どもたちが楽しく習得できるのは、次期新指導要領から始まる、プログラミング教育の入門に繋がると思います」と都賀先生。

子どもたちは真剣な眼差しで画面に食い入るように一生懸命ドリルに取り組んでいました。



● まとめ授業の新たなバリエーションとして

これまでは、紙のドリルや計算問題でまとめの授業を行うことが多かったのですが、eライブラリのドリルを活用することで、授業にバリエーションが加わり、子どもたちのモチベーションも「楽しんで復習できる」に変わっていききました。また、家庭でも利用できることで、授業の中で得たモチベーションを家庭に繋げることができます。

子どもたちにとっては自分の学習の定着度が確認できることで更なる学習意欲に繋がり、先生方にとっては授業準備の効率化に繋がっています。



教務主任 都賀 ひろみ 先生のお話 ～学力向上に結び付けたい～



都賀 ひろみ 先生

子どもたちに活用してもらうには、先生方がeライブラリの良さを体験する必要があります。そこで、研修だけでなく、使い方のプリントを配布したり、職員会議で活用率の高いクラスを校長先生から発表してもらうなど、先生方への周知にも力を入れてきました。

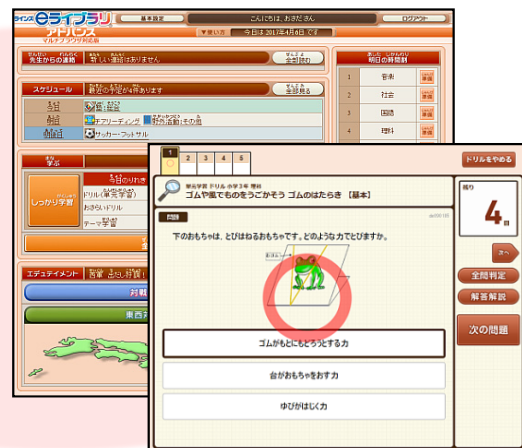
また、今回の「授業支援」を実施したことで、PCに苦手意識のあった先生方からも「こうやって指導すれば良いんですね」との感想が多く、安心感に繋がっていました。eライブラリは学校でも家庭でも学習できることがとても良いと感じています。家庭学習の習慣化は学力と大きく結びついていると思うので、家庭と連携しながら、一人でも多くの子どもが良さを実感し、学力向上に結び付けていきたいと考えています。

真鍋小学校では全児童に家庭学習用のIDカードを配布し、家庭学習サービスの運用をスタートしました。全校児童850名以上の大規模校での効果的な普及の方法についてお話を伺いました。

● PTA会長からの後押しが普及の決め手！

家庭学習サービスの開始にあたり、子どもたちだけでなく保護者への周知方法にも工夫をしました。「文書だけでは効果やメリットを伝えることは難しいと感じていました」と江原校長先生。そこでPTA会長に学校で実際に体験してもらったところ「これはすごく良いからもっと広めましょう！」との心強い後押しがあり、保護者説明会の実施を決定しました。

大規模校では子どもたちだけでなく、**教師と保護者が連携して進めていく**ことが、家庭学習を広める大事な一歩になるのです。



● 大盛況の保護者説明会



▲ 保護者説明会の様子

保護者説明会には、80名以上の保護者が参加し、熱心に説明を聞きながら操作をしていました。

実体験を伴うことで、**保護者への周知や理解のスピードを速める**ことができます。『子どもが学校でドリルをする⇒家庭でドリルをする⇒保護者が家庭での様子を見て、良さを実感する⇒学校と家庭が一体となって活用する』という一連の行程がスムーズになります。

熱心な保護者同士の連携や口コミなどから、説明会後の活用や履歴も増えたそうです。

● ×になったときに自分と向き合うことが大事

「eライブラリは解説があることで、**自分の間違っただ箇所を客観的に見る訓練**になります。×になったとき、個別学習の場合は自分でその×の意味を考えなければいけません。それを解説を見ながら**自分の考えと向き合い、自分なりに納得できるまで考えるという良い機会**になると思います」と江原校長先生。

間違えたときにどう乗り越えていくか、どうふりかえりを行うかが、今後同じような課題に向き合ったときに、子どもの能力を伸ばしていくポイントだと考えています。



校長 江原 保子 先生のお話 ～履歴を活かし家庭との信頼関係の構築に～



江原 保子 校長先生

eライブラリの良いところは家庭学習の履歴を残せて、それを教師側も確認できることです。学校から離れて家庭で子どもたちが頑張っている様子を、**担任が子どもに声掛けをしたり、履歴を見ながら「ここがすごく伸びたね」ということができれば**、子どもも喜び、**子どもと教師との信頼関係の構築に繋がっていき**ると思っています。また、それが保護者との連携により、**学校全体の信頼関係に繋がってくる**と思います。

今回行った「授業支援」や保護者説明会は、子ども・教師・保護者にとってたいへん大きな一歩になりました。今後、履歴の活用方法などを教えてもらいながら、その**履歴を教師自身でどう活用し、授業に取り入れていくかを考え**、子どもたちの学力向上に繋がっていければと考えています。